

日本新薬の歩み

日本新薬は人々の健康と豊かな生活創りに貢献するため、研究開発型の新薬メーカーとして、いつの時代も必要とされる特長ある新しいくすりを創り続けてきました。その根底にあるのは、創業者の「日本人ののむ薬は、日本人の手で」という言葉にも込められたベンチャー精神と「独自性の追求」です。



創立期～1969年
医療用医薬品主体の事業基盤を確立

1970年～1999年
グローバルな事業展開と創薬へ踏み出す

2000年～2013年
経営環境の激変に対応できる基盤の強化

2014年～現在
ヘルスケア分野で世界から評価されるメーカーを目指して

- 1919年 創立
- 1940年 国産回虫駆除剤「サントニン」発売
- 1961年 機能食品事業開始
- 1964年 小田原工場（現・小田原総合製剤工場）竣工
- 1967年 東京支店 新社屋 竣工

- 1971年 代謝拮抗性抗悪性腫瘍剤「キロサイド」発売
- 1982年 中央研究所（現・創薬研究所1号館）竣工
- 1991年 デュッセルドルフ事務所開設
- 1994年 本社地区に西部創薬研究所2号館（現・創薬研究所2号館）竣工
- 1997年 ニューヨーク事務所開設（1999年現地法人化 / 2002年ニュージャージー州移転）

- 2000年 経営理念および経営方針 制定
第一次中期経営計画スタート
- 2007年 行動指針（Challenge、Speed、Investigation）策定
- 2011年 骨髄異形成症候群治療剤「ビダーザ」発売
- 2011年 北京事務所開設

- 2016年 肺動脈性肺高血圧症治療剤「ウプトラビ」米国で発売
- 2020年 デュシェンヌ型筋ジストロフィー治療剤「ビルテブソ」日米で発売
- 2021年 中国現地法人「北京艾努愛世医薬科技有限公司」「天津艾努愛世医薬有限公司」設立
- 2023年 米国創薬拠点「イノベーションリサーチパートナーリング」開設



小田原工場（現・小田原総合製剤工場）



中央研究所（現・創薬研究所1号館）



東部創薬研究所



NS Pharma

創立期～1969年

日本新薬は1940年に回虫駆除剤「サントニン」の国産化を果たし、国民の回虫感染率低下と業績伸長に大きく貢献しました。1960年代には、新研究所竣工などの研究開発体制拡充による新薬創製や海外企業との提携による製品の導入で、医療用医薬品を多角化するとともに食品事業を開始しました。小田原工場の竣工や営業拠点網も構築するなど事業基盤を確立しました。

1970年～1999年

研究開発では非臨床試験の安全性・適切性を保証するGLPに適合した中央研究所（現・創薬研究所1号館）などを新設し、研究開発体制を強化していきました。1990年代にはドイツと米国に事務所を開設し、日米欧における事業展開で国際化を進めました。消化器、循環器、泌尿器、耳鼻科領域などに関連してユニークな新製品も上市し、大型製品育成に営業資源を集中させました。食品事業では健康食品素材の提供を開始しました。

2000年～2013年

経営理念と経営方針を明文化するとともに、中期経営計画を策定し、目指す姿を明確にしました。泌尿器や血液がん領域など注力領域を絞って経営資源を投入し、東部創薬研究所における核酸医薬品研究にも資源の投入を図りました。アンメットメディカルニーズを積極的に探り、大手企業があまり手掛けない領域において継続的に製品を上市し、その中から事業を牽引する製品も育ちました。

2014年～現在

第五次、第六次の5か年中期経営計画の経営戦略テーマとして「独自性の追求」を掲げ、新製品を継続的に上市することで、独自基盤の構築を図ってきました。その中には、グローバル展開を果たした自社創薬の低分子医薬品と核酸医薬品が含まれ、米国においてNS Pharmaによる自社販売を始めるなど、当社の新たなビジネスモデルの確立と発展につながっています。今後もグローバル事業のさらなる推進を行い、ヘルスケア分野で世界から評価されるメーカーとなることを目指します。